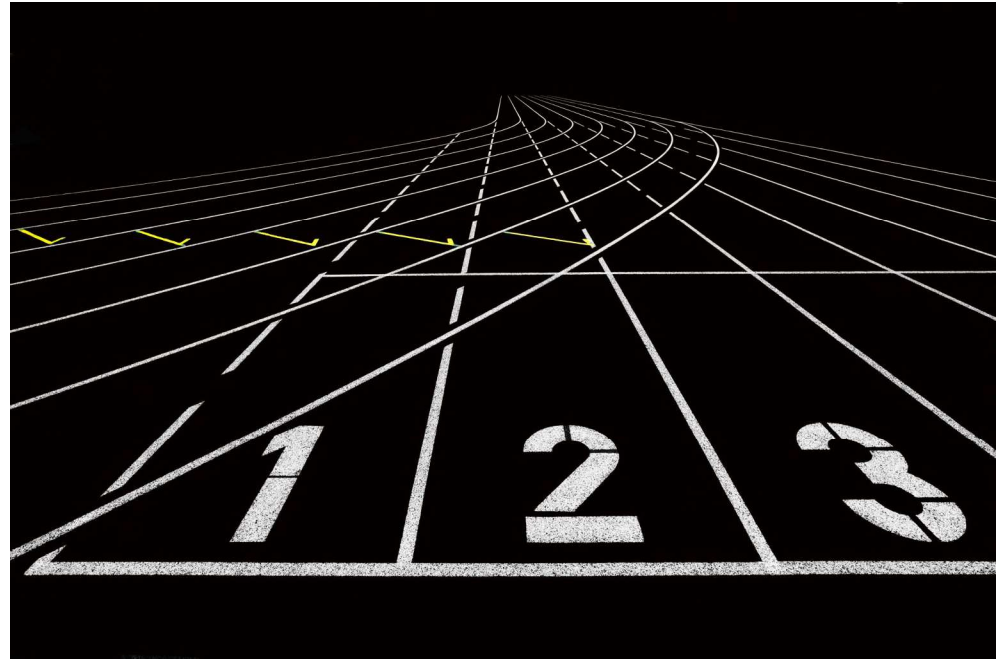


アジア競技大会・アジアパラ競技大会 に向けた感染症対策



主な内容

1. マスギャザリングとは
2. 注意すべき感染症の紹介
3. アジア競技大会・アジアパラ競技大会における感染症サーベイランスとその強化について
4. 過去のマスギャザリングイベントとの比較
5. 私たちにできる感染症対策

1. マスギャザリングとは

一定期間に多くの人が集まる行事のこと

集団 mass(マス)



マスコミ

マスメディア

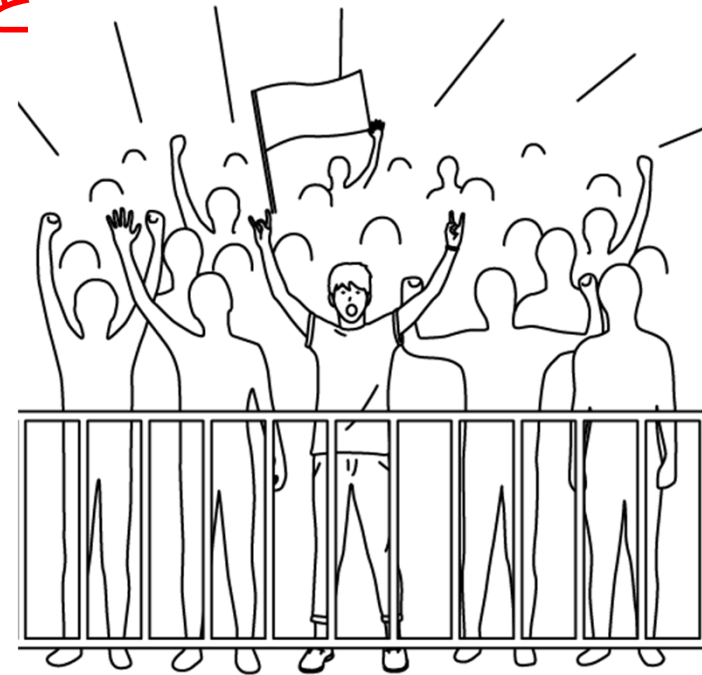
集い gathering, gather
(ギャザリング、ギャザー)



トゥギャザー

マスギャザリング

感染拡大のリスク増加 



オリンピック、イスラム教の
巡礼(ハッジ)、スポーツ・ライ
ブ観戦、...

2. 注意すべき感染症の紹介

対象疾患

麻しん(はしか)

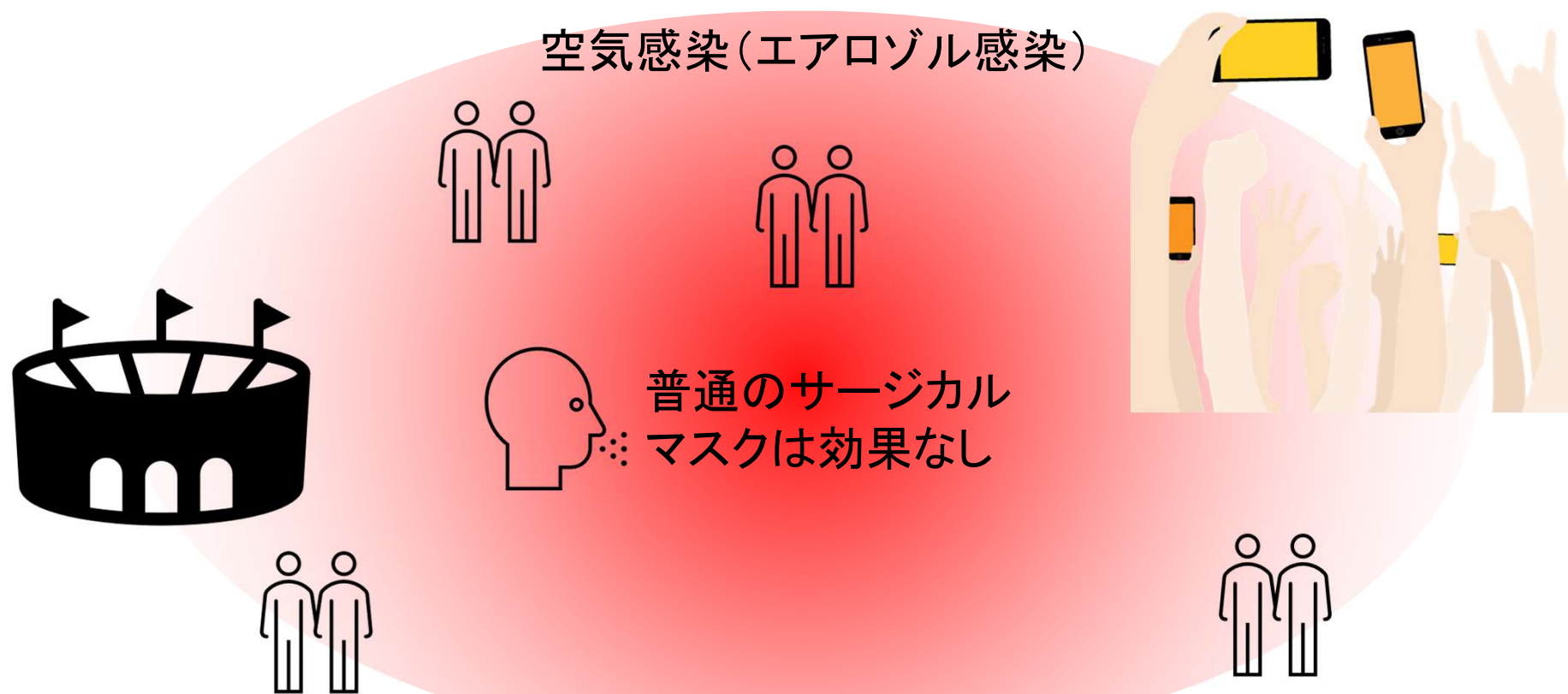
しんしゅうせいずいまくえんきんかんせんしょう
侵襲性髄膜炎菌感染症

ちゅうとうこきゅうきしょうこうぐん (まーず)
中東呼吸器症候群(MERS)

ちょうかんしゅつけつせいだいちょうきんかんせんしょう
食品に関連した腸管出血性大腸菌感染症

麻しん

- ・会場内で空気感染する可能性を考える



近距離だけでなく、離れていても同じ空間にいる人は感染のリスクがある。

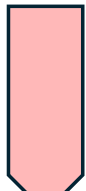
マスクでも効果が薄く、麻しんワクチンが最も有効

感染者の個室管理・疫学調査を行う



麻しんワクチン

1歳



第1期

1歳以上2歳未満(2歳の誕生日の前日まで)

(注) 令和4年4月2日から令和5年4月1日生まれの方のうち、MRワクチンの供給不足により令和6年度中に接種ができなかった方も無料で接種が受けられます。(令和9年3月31日まで)

2歳



5歳



第2期

小学校就学前年度

(年長児相当。令和8年度は令和2年4月2日から令和3年4月1日生まれの方。)

(注) 平成30年4月2日から平成31年4月1日生まれの方のうち、MRワクチンの供給不足により令和6年度中に接種ができなかった方も無料で接種が受けられます。(令和9年3月31日まで)

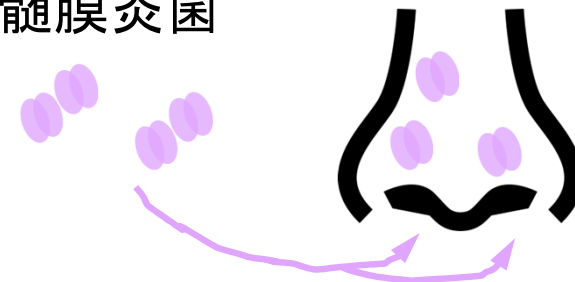
7歳

侵襲性髄膜炎菌感染症

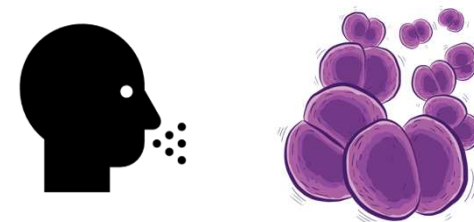
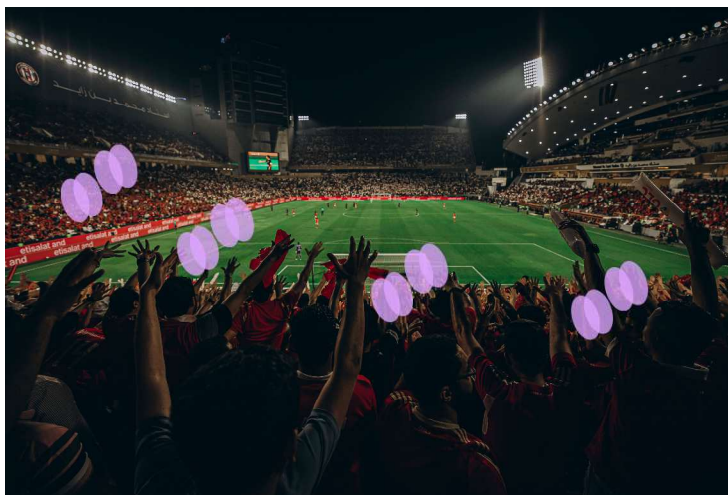
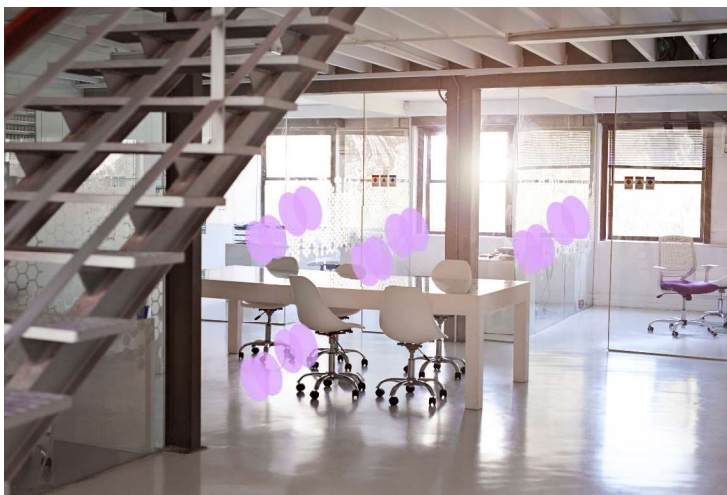
髄膜炎菌は、菌表面の莢膜多糖体により12の血清群に分類され、主に6つの血清群(A,B,C,X,Y,W)が侵襲性髄膜炎菌感染症を起こす。

空気中の菌を吸い込むことで、一部(0.4~0.8%)の健康者の鼻腔に常在するが発症率は1%未満ととても低い。
無症状保菌者から飛沫感染するが、発症は稀(1%未満)

髄膜炎菌



吸入、鼻腔内で定着
くしゃみなどで飛沫感染する



感染経路：共同生活における接触(キスなど)・大規模イベント

侵襲性髄膜炎菌感染症の症状・病型

症状

発熱 ・ 頭痛 ・ 項部硬直^{注1)} ・ 意識障害など



病型

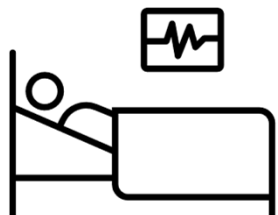
軽症型から順に、菌血症/敗血症、髄膜炎、髄膜脳炎、ウォーターハウス・フリードリヒセン症候群^{注2)}（両側副腎出血）

注1) こうぶこうちよくといい、首が硬くなること

注2) 最も重症で、治療しても24時間以内に致死的となる。

患者発生時の二次感染対策・予防

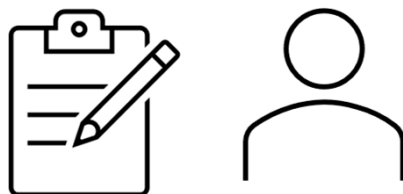
侵襲性髄膜炎菌
感染症の発症



発症者

速やかな治療

接触者の確認と
予防措置



発症者の行動・
接触者の確認

接触者に予防的
治療実施



抗菌薬・(可能で
あれば)ワクチン

MERS

(中東呼吸器症候群)

- ヒトコブラクダはMERSコロナウイルスを保有している宿主であり、その結果としてヒトの感染源(媒介源)にもなっている。
- 有効な治療及びワクチンはまだない。
- 2014年4月頃サウジアラビアを中心とするアラビア半島で患者数増加がみられた。
- ヒトコブラクダ/患者から飛沫・接触感染



約70%がヒトコブラクダから感染

たびたび起きるコロナウイルス感染症の世界的流行

疾患名	ウイルス名	流行期間	特徴
重症急性呼吸器症候群(SARS)	SARSコロナウイルス(SARS-CoV)	2002年～2003年	急性、重症肺炎 致死率10%
中東呼吸器症候群(MERS)	MERSコロナウイルス(MERS-CoV)	2012年～	感染経路 感染したヒトコブラクダ、患者との接触 致死率約30～35%
新型コロナウイルス感染症(COVID-19)	SARSコロナウイルス2(SARS-CoV-2)	2019年12月～	変異株が多く、感染スピードと感染力が強い

腸管出血性大腸菌感染症

- 大腸菌の一種であり、出血性下痢などの症状を引き起こす。
- 世界中で集団発生がみられる。
- 肉などの大腸菌による汚染と加熱不十分により発生すると考えられる。
- 検出される血清型：O157(最多)、O26、O111など

生肉は中心部までよく加熱

溶血性尿毒症症候群：ベロ毒素により生じ、溶血性貧血，血小板減少，急性腎不全により死亡することもある。



3. アジア競技大会・アジアパラ競技大会における感染症サーベイランスとその強化について

アジア・アジアパラ競技大会 感染症情報センター



- 大会に関する感染症患者情報の収集、分析
- 名古屋市におけるサーベイランス体制の強化
- クルーズ船内、宿泊施設で発生した感染症のサーベイランス

リスク評価の考慮点

- 昼夜を問わず開催される集会・団体
- 期間中、アジアの他国より数万人が入国
- 多くの人が公共交通機関を利用



- 会場周辺に感染症を媒介する昆虫や生物が存在
- 会場とその周辺で提供される飲食物
- 会場周辺の宿泊施設の利用者の増加
- 選手宿泊用のクルーズ船など



4. 過去のマスギャザリングイベントとの比較

年	イベント名	開催国	感染症
2001	イスラム教徒の大巡礼(Hajj)	サウジアラビア	侵襲性髄膜炎菌感染症
2002	ソルトレイクシティオリンピック	米国	インフルエンザ
2006	サッカーワールドカップ	ドイツ	ノロウイルス胃腸炎
2006	アジア競技大会	カタール	水痘
2007	国際青少年スポーツ大会	米国	麻疹
2014	ソチオリンピック	ロシア	麻疹
2015	世界スカウトジャンボリー	日本	侵襲性髄膜炎菌感染症
2018	平昌オリンピック	韓国	ノロウイルス胃腸炎
2021	東京オリンピック	日本	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会開催に向けての感染症リスク評価

<https://id-info.jihs.go.jp/mass-gathering/asiad2026/risk-assessment/index.html> (2026年9月11日アクセス可能)

他のマスギャザリングイベントにおける対策

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会(東京 2020 大会)
 - プレーブック(規則集)・・・選手用の感染対策や行動管理を定めた指針
 - バブル方式・・・選手・大会関係者の移動範囲を制限、外部から遮断
- 大阪・関西万博(EXPO2025)
 - 4疾患(麻しん、侵襲性髄膜炎菌感染症、中東呼吸器症候群(MERS)、食品に関連した腸管出血性大腸菌感染症)を注意すべき感染症に設定
 - 会場で提供された食品が原因の集団食中毒についても十分注意
- パリ 2024 オリンピックパラリンピック競技大会(パリ 2024 大会)
 - ワクチン、食品・水、媒介動物、性感染症などの分野・対策別で提言を行った。

5. 私たちにできる感染症対策

ワクチン接種

空気感染



換気

飛沫感染



マスク

接触感染



手洗い・
手指消毒

昆虫媒介
感染



防虫

体調不良時



自宅待機



アジア競技大会・アジアパラ競技大会で実施した
感染症対策と備えを大会後も残し継続していく